

東日本大震災から 5 年を迎える 3 月 11 日、 「忘れない」をテーマに特別放送

東日本大震災から 5 年を迎える 3 月 11 日、
とちぎテレビは「忘れない」をテーマに、生ワイド番組を特別バージョンで放送いたします。



イブニング 6

(午後 5 時 30 分～午後 7 時 30 分拡大)

通常の午後 6 時～午後 7 時の放送を拡大して、午後 5 時 30 分から 30 分拡大版で放送します。さくら市喜連川福祉センターでは、さくら清修高校生が主体となって「SAKURA3・11『絆』プロジェクト 2016」が開かれます。「さくら市から東北に思いを伝える」という趣旨で、灯ろうの点火や高校生による追悼コンサートが実施されます。番組ではこの模様を現地から生中継します。高校

生をはじめとする関係者のインタビューを交えて、復興への思いを伝えます。さらに番組では、県内各地で開かれる追悼行事や復興を願う催しをニュースで放送します。



ニュースワイド 21

(午後 9 時～9 時 55 分)

スタジオにゲストをお招きして、「地域の防災、減災」について考えます。震災や、この 5 年間で起きた数多くの自然災害を教訓に「地域力」「減災」が叫ばれましたが、本当に必要なことは何なのか、また防災力を上げていくためにはどうすればよいかを考えます。

(ゲスト)

太田正さん (作新学院大学 減災・リスクマネジメント推進センター副センター長)

福嶋真理子さん (栃木放送アナウンサー、防災士、気象予報士)

東日本大震災から 5 年を迎える 3 月 11 日、 報道特別番組を放送

とちぎテレビ報道特別番組
震災から 5 年 ～忘れない～
(午後 7 時～午後 8 時 25 分)



震災では栃木も甚大な被害を受けましたが、5 年を経て、普段の生活の中では震災を語ることは少なくなっていました。しかし、なお震災の影響によって苦しんでいる人は数多く、5 年という日々を単に「節目」としてのみとらえずに、いかに被災者に寄り添っていくかが大きな課題といえます。震災当初に懸念していたことが、今改めて問われているのです。あすにつなげるために、震災 5 年の「これまで」を振り返り、「今」を見つめ直します。

①「被災した中学校の卒業生は」

震災で校舎が損壊した市貝町の市貝中学校。生徒たちは 5 年前、町外の小学校を間借りして授業を行っていました。当時中学 1 年生だった生徒は現在高校 3 年生となり、自分の進む道を真剣に考えています。震災の経験が人生にどう影響したのかを追います。

②「アマチュア写真家がとらえた 5 年」

足利市出身のアマチュア写真家・新井栄司さんは、震災後、陸前高田市の奇跡の一本松を訪れたことをきっかけに被災地の取材を続け、2013 年 3 月に故郷・足利市で写真展を開きました。新井さんは「クローン症」という病気と闘いながら活動を続けています。アマチュアカメラマンの見た被災地の 5 年間を、彼の活動と共に伝えます。

③「栃木の中のフクシマ」

震災を考える時に最も影響が大きかった問題の 1 つが、東京電力福島第 1 原子力発電所の事故です。福島の多くの人が栃木で暮らしている現状は 5 年たっても変わりません。ここでは、飯舘村から希望を見出しながら栃木で生活を送る人、さらに那須塩原市民が 5 年たって放射能問題とどう向き合っているのかを取材しました。